

JCI いわき青年会議所

MINPO 新いわき民報

「心の復興推進座談会」だより

第2号

いわき青年会議所 〒970-8026 いわき市平字撞樋小路18-8 ☎0246(24)0780 いわき民報社 〒970-8026 いわき市平字田町63-7 ☎0246(23)1666

本紙は、公益社団法人いわき青年会議所と株式会社いわき民報社が共同で企画・発行しています

双葉町民有志による「夢ふたば人」が、いわき市南台の双葉町応急仮設住宅内で繰り広げた「双葉タルマ市」。町の若者がたるまをかたどったみこしを担いだ。平成26年10月



3・11 被災者を支援するいわき連絡協議会（みんぷく）が発行する月刊の被災者・避難者向け情報紙「一步一報」

「これからのいわきとふたばの話しよう」
—心の復興推進座談会— 第2回は9月16日、公益社団法人いわき青年会議所（JCI）（渡邊大輔理事長）の9月公開例会の席上で開かれた。いわき市平のラトフ内いわき産業創造館を会場に、パネルディスカッションが繰り広げられ、約130人が来場した。また第3回は12月14日、同JCIの創立10周年記念フォーラムとして、いわきワシントンホテル椿山荘で開催される。公益財団法人国家基本問題研究所理事長・櫻井よしこ氏の基調講演とパネルディスカッションを実施する。

これからの

いわきとふたばの

話をしよう

いわき青年会議所
創立10周年記念事業

12月14日にいわきワシントンホテル椿山荘でフォーラム
櫻井よしこ氏の講演とパネルディスカッション

第2回
心の復興推進座談会・
パネルディスカッション
9月16日（火）／いわき市平・
ラトフ6階いわき産業創造館
にて開催



第2回心の復興推進座談会で繰り広げられたパネルディスカッション

大切な隣人として「共生」は不可欠

震災・原発事故によって現在、いわき市内には、双葉郡から約2万4000人が避難し、居住している。その人々といわき市民との共生へつなげようと始まった「心の復興推進座談会」（公益社団法人いわき青年会議所、株式会社いわき民報社共催）。同JCI「心の復興推進委員会」事業として展開中で、7月の第1回では、福迫昌之東日本国際大経済情報学部長・教授のコーディネートのもと、両地区のJCI代表ら4人が議論を交わした。そこでは「いわきにとって双葉郡からの人々との共生は不可欠である」こ

と、さらに、それを阻む行政の壁が厚い現状を踏まえ、「民間の現役世代が動かなければならない」ことを確認しあった。これを受け第2回では、いわきにおいて事業を再開させた双葉郡の企業経営者や、双葉町民が住む市内の応急仮設住宅で交流活動を展開する団体、また被災者を支援するNPO法人の代表ら5人が登壇し、「大切な隣人として共に生きる心の醸成」に向けての意見を発表した。コーディネーターは、第1回同様、福迫氏が務めた。

（2・3面に登壇者プロフィールおよび概要掲載）



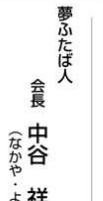
いわき市平在。いわき地域復興センター副センター長。47歳

東日本国際大学経済情報学部長・教授 (兼)地域経済・福祉研究所長 福迫 昌之氏 (ふくだ なるゆき)



双葉郡双葉町出身。震災時には、東京電力福島第一原発で被災。避難所を転々とした後、いわき市内へ。平成23年4月に「株式会社双葉」を設立。いわき市中央白鹿町在住。43歳

株式会社双葉田工業 代表取締役 福田 一治氏 (ふくだ かつはる)



夢ふたば人 会長 中谷 祥久氏 (なかがや よしひこ)



双葉郡双葉町出身。震災後、いわき市南台の双葉町応急仮設住宅において、「夢ふたば人」を発足。いわき市中央白鹿町在住。59歳

特定非営利活動法人 三日月被爆者支援センター連絡委員会(みづく) 事務局長 赤池 孝行氏 (あけい たかゆき)

有限会社キャニオンワークス 代表取締役社長 半谷 正彦氏 (はんが いまさむ)

公益社団法人いわき青年会議所 理事長 渡邊 大輔氏 (わたなべ だいすけ)

最後に コーディネーター 福迫 昌之

私たちが東日本大震災にない状況にあり、出身地をいつか復興し、一度災害を乗り越えることが出来た。行政の補助があつても、民間の力を借りて、復興を遂げる。...

未来に向けて解決すべき課題は何か、その解決のためにどう動くべきか 地域コミュニティ構築には自らの発信も必要

企業にだけ頼る例は少ない。自らの発信も必要。双葉郡の復興は、行政だけでは難しい。...

震災からこれまでを振り返って いわきで生きる覚悟のある人がいる一方で 出身地を言えないケースも

連携・協力の必要性が浮き彫りに。双葉郡の復興は、行政だけでは難しい。...

自立促すために 重要な雇用の問題

双葉郡の復興は、行政だけでは難しい。重要な雇用の問題。...

「共生」の実現のためにどう進むべきか 直接かかわり理解し合って道ひらく

「共生」の実現のためにどう進むべきか。直接かかわり理解し合って道ひらく。...

「共生」の実現のためにどう進むべきか。直接かかわり理解し合って道ひらく。...

「共生」の実現のためにどう進むべきか。直接かかわり理解し合って道ひらく。...

「共生」の実現のためにどう進むべきか。直接かかわり理解し合って道ひらく。...

原発事故以降、いわき市へは、避難区域の多くの人々が避難しています。「共生を目指していく」ことを目標に、それぞれの立場から、いわき市民や避難している人々へ対する率直な意見をお聞かせください。

○日々触れる情報がステレオタイプである以上、なかなか共生は進まないのではないか？ 一部には、前に進むことのできない人たちがいるように感じる。(男・40代)

●言葉だけでなく、まず互いに行動し、一緒に汗をかき、1つのことを成し遂げられれば、分かり合え共生できると思う。同じ人間、同じ日本人であることをもう少し真剣に考えるべきである。(男・40代)

○復興には、若い世代の動きが大切。もっと分かりやすく動き、行動をどう見せていくかがJICの役目だと思う。パネルディスカッションはいい企画だと思う。(30代)

●いわき市民と双葉郡民が同じ状況にならないと、根源的な問題は解決しないと思う。率直に言うと共生は不可能だと思う。(男・30代)

○この座談会は公開とはいえ、有識者やJIC関係者しか参加できていないと思う。もっと広く情報を発信しないと意味がない。(男・30代)

一緒に汗をかけば分かり合える

●賠償金をもらっているという「ねたみ」のみが大きく取り上げられている。避難者数に応じて、いわき市に公的資金が援助されていることはほとんど知られていない。こうしたことをいわきの人々は理解すべき。(40代)

○共に活動したり仕事したりする機会が増えることが大切。それらのコアになる人が重要。そういう人を増やし、つないでいくことが大事。(男・40代)

●避難者全員を「避難者」と思うことをやめた方がいいと思う。中には自立している人もいるし、そういう人たちが「避難者」扱いされると、モチベーションも下がってしまうと思う。本当に共生を望んでいるのであれば、双葉郡からの人々＝避難者という方をなくすべきでは？ 行き過ぎた支援は、人をダメにしてしまうような気がする。(30代)

○避難している人が自立を目指すのは大変。まずは、仕事を紹介することが望ましいと思う。ただ、職場のいじめなどもあると聞いており、避難者でないとは分からない感情もある。(40代)

●双葉郡からの人々の中には、やはり避難者意識が強く、それに甘



座談会に聴き入る参加者

左記の質問は、いわきJICが9月公開例会「第2回心の復興推進座談会」の参加者に対し実施したアンケートの1項目です。パネルディスカッションを聴講して、何を感じどう考えたか——質問に対し寄せられた意見の一部を紹介し、本紙では、これらを参考に、さらに「共生」について考えていきます。

え過ぎている人もいる。一方、いわき市民に伝わっていないことも多いと思う。例えば、ごみの処分費用などは、避難者の分も国から出ているのに市民は分からず、そのためあつれきが大きくなっている。賠償金が出ている間は共生はできないのだろうか？ (30代)

○(浪江町出身で)中通りに避難している家族は、以前は「いわきに行きたい」と言っていたが、新聞などでよくいわきに避難している人々への非難の記事を目にし、今は「行きたい」と言っている。自分もいわきの人を「怖い」と感じている。(女・20代)

●互いに都合の悪い情報であっても、行政から市民、郡民に伝えていくことで、互いの立場を理解できると思う。(男・40代)

○避難している人は大変だろうという漠然とした思いはあるが、どのような考えを持って生活しているのかが分からず、外国人を見るような目で見てことがある。(男・30代)

お互いをどれだけ思いやれるか

●避難者への助けが本当に必要なか、疑問だ。(男・20代)

○まず互いを知り、現状を知る。その意味では、この例会でスタートラインに立つための準備を始めたのだと思っている。(男)

●いわきは温かく避難者を受け入れてくれている。変なうわさばかりが先走って残念。(30代)

○同じ地域で残るの共生を考えると、(お祭りなどの)一時的な共同作業ではなく、日常を同じ環境で暮らすべきだと思う。そこには、税金や住民票のこともある。「避難している」という意識をなくす必要もあると思う。(男・30代)

●いわき市民と双葉郡からの人々間にあつれきがあるというが、税金をどこに納めているのかという話が多い気がする。しかし、住民票を移さずに引越すことはよくあることで、特に問題とは思わない。(30代)

○要は、互いにどれだけ相手を思いやれるかだと思う。自分のことだけを考えていても、何も進展しない。それは、いわき市民も避難している人も一緒ではないか？ (30代)



いわきJIC

「いわきの医療環境改善」について考え合った10月例会

いわきJICの10月公開例会「いわきの医療環境改善に向けて」が10月14日、いわき市文化センターで開催された。同JICが市民と医療機関に対し実施した「地域医療に関する意識調査の結果発表」とそれを受けたパネルディスカッションが繰り広げられ、約350人が来場した。パネリストには、清水市市長、長谷川徳男医師会長、新谷史明市立総合医療センター院長、赤津慎太郎いわきJIC課題解決常任理事が登壇し、神山敬章いわき明星大文学部教授がコーディネーターを務めた。4人は「いわき市内の医師不足について」「かかりつけ医を持つこと」「理想的な医療連携とは」「市民・医療・行政それぞれの役割」の4点に関し意見を発表し「いわきの医療環境改善」について考え合った。写真。

キャニオンワークス
 代表取締役社長 半谷 正彦
 いわき工場：福島県いわき市好間工業団地 1-1
 TEL：0246-36-1102/FAX：0246-36-1103
 【アウトドア用品】
 登山用品、各種スポーツバッグ、ウェットスーツ製造販売

株式会社 渡辺組
 代表取締役 渡辺 弘
 〒972-8318 いわき市常盤開船町上開83
 TEL 0246-43-2981 FAX 0246-43-2985
 URL <http://www.wacon21.co.jp>

Gas One
 常盤共同ガス株式会社 代表取締役社長 猪狩 謙二

JCI 公益社団法人いわき青年会議所 創立10周年記念事業
「これからのいわきとふたばの話をしよう」
 日時 12月14日(日) 14:00~16:30
 会場 いわきワシントンホテル椿山荘 **入場無料**

〈基調講演〉14:00~ 講師 櫻井よしこ氏 (公益社団法人国家基本問題研究所所長)
 〈パネルディスカッション〉15:00~ パネリスト いわき市長 清水 敏男氏 NPO法人ハッピーロード理事長 西本由美子氏 他調整中

コーディネーター 東日本国際大学 経済情報学部長・教授 福迫 昌之氏

【公式サイト】 <http://yoshiko-sakurai.jp>

コンセプトは「いわき市民と双葉郡の人たちが「よき隣人」として互いを知り認め合うために」。いわきJICの創立10周年記念事業であると同時に、第3回「心の復興推進座談会」の位置づけで開かれる。いわき市、双葉郡の未来を切りひらくため、民間は、そして行政はこれからどんな覚悟をもって何を為すべきか——。また、本当の復興とはどのような姿なのか、そのためには何が必要なのか——。基調講演とパネルディスカッションで考えていく。

問い合わせ **いわき青年会議所事務局** 〒970-8026 いわき市平字播磨小路118-8 TEL0246(24)0780 FAX0246(25)7110 E-mail:info@waki-jc.com